

枕崎市 地域学校協働活動だより

令和8年6月号

パソコンで検索 **枕崎市地域学校だより** 検索

スマホで読み取り



発行
枕崎市
教育委員会
生涯学習課

「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されています。スマホで読み取ったりパソコンで検索して、カラー写真付きの記事をご覧ください。

～ボランティアによる読み聞かせが始まりました～ 桜山小学校

桜山小学校では5月28日に、読み聞かせボランティアグループ「スマイル ママ ブック」の方々による、新年度最初の絵本の読み聞かせがありました。

枕崎市内には読み聞かせボランティアグループが6つあり、それぞれのグループが市内8つの小中学校で、定期的に読み聞かせ活動を行っています。

それぞれのグループが読み聞かせを行っている学校は次のようになっています。

- おむすびの会・・・枕崎小学校と枕崎中学校
- スマイル ママ ブック・・・桜山小学校と桜山中学校
- のはら'S・・・別府小学校
- おひさま・・・別府中学校
- たんぼぼのわたげ・・・立神小学校
- プーたんの会・・・立神中学校

この日は「スマイル ママ ブック」の3名の方々が、お昼休みに体育館で『はらぺこあおむし』などの読み聞かせを行いました。50名以上の子供たちが集まって楽しそうに聞き入っていました。



『はらぺこあおむし』を知ってる人！



あおむしが綺麗な蝶になりました

～立神校区内の南海自動車学校で交通安全教室～ 立神小学校

4月になり新1年生を迎え、枕崎市内の小中学校ではそれぞれの学校で交通安全教室が行われました。立神小学校では、4月17日に1年生26名と2年生15名が学校で交通安全のDVDを見た後、立神校区内にある南海自動車学校で、実際に自動車を走らせて実践的な交通安全教室を行いました。



車が止まるのを確認して横断歩道を渡る

南海自動車学校を1時間貸し切りにして、自動車学校の先生方、警察署交通課の方や市の交通安全指導員が交通安全指導を行うもので、自動車学校の好意で30年以上も続いている行事です。

最初に、安全な横断歩道の渡り方を教わりました。子供たちは、自動車が実際に道路を走っている中で、「止まる」「見る」「待つ」を何度も確認していました。その後、自動車がブレーキをかけても急には止まれず風船を割ってしまう実験、ダンボールが自動車の陰から車道に飛び出して自動車と衝突してしまう実験などが行われ、自動車の怖さを目の前で実感していました。

～全校生徒で茶摘み体験学習～ 別府中学校

別府中学校では4月21日に、校区内の瀬戸にある国立研究開発法人「農研機構」の茶畑で、全校生徒61名が茶摘み体験学習を行いました。

2年連続で荒茶の生産量が日本一になった鹿児島県ですが、枕崎市は栽培面積が県内4位のお茶の産地で、中でも別府地域は茶業が地元の基幹産業であり、市内のお茶生産の主力となっています。

茶摘み体験学習は、20年以上前から続いており、働く尊さと特産品について学ぶ別府中の恒例行事です。生徒たちは、農研機構の方から、お茶の手摘みの手法である「一芯三葉(いっしんさんよう)」を教わり、その後実際に茶摘みを行いました。

一芯三葉とは、上質な緑茶を作るための手摘み手法の一つで、良芽を選び、芯芽と芽の下の葉を一枚、二枚、三枚と数えつつ丁寧に摘む方法です。通常は機械で刈り取りが行われますが、生徒たちは、昔ながらの手摘みで茶葉を指で挟み丁寧に摘んでいき、貴重な体験をさせていただきました。1時間余りの作業で約40kgの茶葉を収穫することができました。茶葉は農研機構で加工され、煎茶になって生徒のもとに届けられたということです。



「一芯三葉」でパッチリ摘めました

枕崎小学校では、3年生が総合の「からいも探検隊」の授業で、「からいもの苗植え」から「いも掘り」まで行い、郷土の特産品である「からいも」に親しみながら育てています。今年5月8日に3年生の2クラス54名が「紅さつま」の苗を学校内の畑に植えました。

～あま～い「紅さつま」を植え付けからいもの苗植え～ 枕崎小学校



竹の棒を上手にを使って苗を植える

「紅さつま」は、鹿児島県で広く栽培されているサツマイモの品種です。赤色の皮と、中身は淡い黄色で、ホクホクとした食感が特徴です。鹿児島の暖かい気候を活かして甘くて美味しい芋に育ちます。

子供たちは、ボランティアの山崎己代治さんに指導していただき、マルチをかぶせた芋畑の畝に、竹の棒を使って上手に芋の苗を植えていました。

芋の収穫は10月になる予定です。子供たちは今から収穫を心待ちにしています。

～歴史の講演と史跡の現地学習で「郷土について学ぶ」～ 立神中学校

立神中学校では、毎年1年生の総合の時間で郷土学習に取り組んでいます。今年も枕崎市文化財保護審議会会長の牛山好治さんが、学校での講演と史跡などの現地学習指導を行い、1年生38名が郷土について学びました。

4月27日には、枕崎と南方の島々のつながりを中心に講演があり、松之尾遺跡で発見された「ゴホウラ製貝輪」や、立神中学校にある縄文時代の住居跡の遺跡などの話を聞きました。



火之神公園で「立神岩」について説明

5月13日の史跡などの現地学習では、午前中に枕崎消防署近くの硫黄山岩崎寺跡を見学し、枕崎と硫黄島のつながりを学習しました。火之神公園では、火之神の山幸彦伝説や枕崎のシンボルである立神岩の説明がありました。立神墓地内での「黒島流れ99人溺死の碑」では、「明治28年に枕崎で最大の海難事故『黒島流れ』が起こり、枕崎全体で411人、立神地区で99人の遭難者があった。これをきっかけに鯉節行商が始まった。」などの説明があり、生徒たちが「箆」や「ざる」を使って鯉節行商の体験を行いました。



「黒島流れ」について説明する牛山さん